

四天王寺学園女子短大 ○川澄 博子  
中畑 久美

1. 近年特に市販されているレーヨン糸系の布地を用い、被服構成上特に表のシルエットに及ぼす影響を考え合わせつつ、縫代始末の適否、ほつれ、また他の諸条件にも、どの程度耐え得るかを考察する意味で本実験を行なった。

2. 厚さ、密度、織組織の異なる9種類の布を使用し、それぞれに数種の縫代始末を施し、一定の条件のもとに、洗濯（乾式・湿式2種類）から見たところのほつれ、縫代の厚み、摩擦強度等をそれぞれの段階に応じて比較検討して見た。

3. 以上、実験の結果を総合してみると、一番薄く、仕上がりよいとされている方法でも、ほつれに対しては完全でない。また縫代始末としては完璧と思われる数種の方法でも厚みという点では、難点が生じた。

その布のもつ性質により、ほつれ具合に差があり、他の諸条件とも考え合わせ、縫代始末においては使用する部位により、方法を検討する必要があると考えられる。